

1 . DXに必要なビジネス変革スキル、プロマネカ

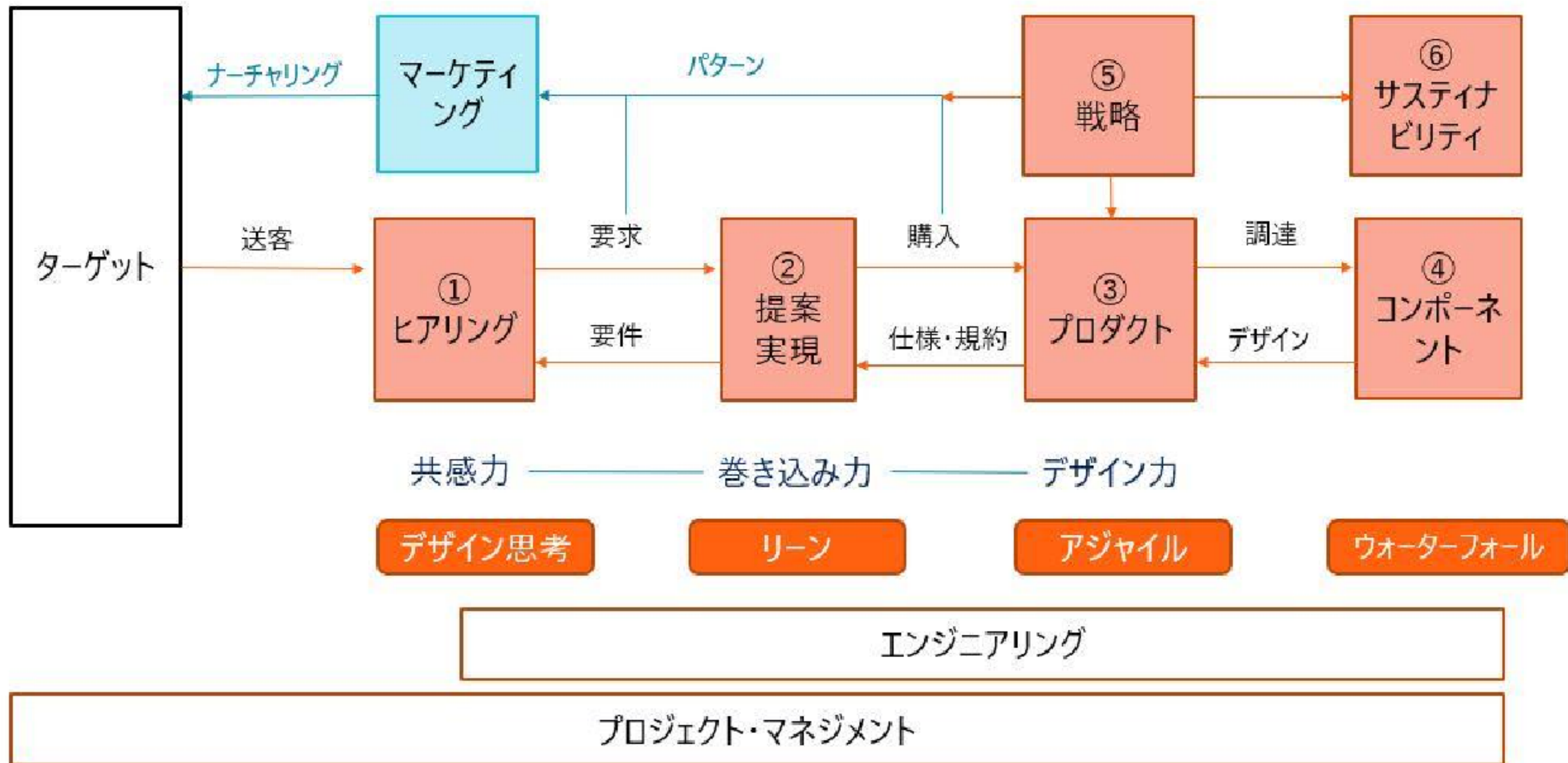
DX人材育成の「大きな壁」、どう越える という本日のテーマにおいて
組織の機能的役割毎に異なる「問いの特徴」の補完関係に着目し、
壁を乗り越えるための手助けとなる手法を通して、
新たな行動を創出する力について、プチワークで体験いただきます。

パネリスト：藤井新吾

メソッド 1. 組織の機能的役割と手法

- 組織の機能的役割について、問いをたてます。
- それぞれの問いは次ページにサンプルを入れています。
- たくさんの問いと回答からそれらを組み合わせ、新たな行動を創出します。

①~⑥ 組織の機能的役割
 手法



参考資料

デザイン思考

人間中心のアプローチ

意味のあるイノベーションを起こすために、ユーザを理解し、その生活に関心を持ち、有意義な挑戦課題の解決策を考案するために作り、学ぶために試す。

■線形アプローチの場合 共感→問題定義→概念化→試作→テストといったサイクルがある。「共感力」

■非線形アプローチの場合 4つコア原則上を反復的に7つのモードで遷移することでデザインイノベーションを起こす。

4つのコア原則 I 調査→(観察による理解)→II 分析→(原則の抽象化)→III 統合→(計画をつくる)→IV 実現→(テストによる現実を知る)→I (更なる)調査

7つのモード ①目的を見出す(I II III IV)、②状況や出来事を知る(I)、③人々を知る(I)、④インサイトをまとめる(II)、⑤コンセプトを探求する(III)

⑥解決策を練る(III)、⑦製品・サービスを実現する(IV)

リーン

価値を創造することに集中し、無駄をはぶくアプローチ

起源であるリーン生産方式では、バリューストリームマッピングなどの手法を用いて、価値を付加する活動と価値を付加しない活動の比率を測定し、生産システムから無駄を特定して取り除く。

これを応用したリーン・スタートアップでは「無駄を徹底的に排除し効率性に焦点を当てて完成した、前例の無い革新的なサービスやプロダクト」を生む出すのに適している。

そのテンプレートであるリーン・スタートアップ・キャンバスは、事業計画を主要なステークホルダーに効率的かつ効果的に伝えるために設計された。「巻き込み力」

アジャイル

適応型の開発アプローチ

適応型のアプローチは、要件が高いレベルの不確実性と変動性にさらされており、プロジェクトを通じて変更される可能性が高い場合に有効である。

アダプティブ・アプローチでは、反復的、漸進的なアプローチを使用する。

反復が短くなる傾向があり、ステークホルダーからのフィードバックに基づいて製品が進化する可能性が高くなる。「デザイン力」

ウォーターフォール

予測型の開発アプローチ

予測型のアプローチは、プロジェクトや製品の要件が定義できる場合に有効である。

例えば、実現性→設計(デザイン)→作成→試験→配備→終了 といったライフサイクルがある。

多くの場合、このアプローチを使用するプロジェクトには、過去の類似したプロジェクトのテンプレートがある。

メソッド 2. 組織の機能的役割における代表的な問いの一覧

- 問いは、たくさんあったほうが良いです。
- 皆で問いを選んだり、作ったりしてみましょう。
- 問いと回答からそれらを組み合わせ、新たな行動を創出しましょう。

①ヒアリング（デザイン思考）

お客様は何を体験したいのか？
お客様は何を大切にしているのか？
問題が目標に変わるには何が必要か？
何を評価すればいいのか？
誰を巻き込めばいいのか？

⑤戦略

私たちは何を目指しているのか？
私たちはいつ・どこで勝負するのか？
お客様は何を必要としているのか？
差別化要因は何か？
どうやって売するのか？

⑥サステナビリティ

持続可能性はどうやって測るのか？
どのようにして社会的公正を実現するのか？
なぜ持続可能な社会にしたいのか？
どのような新しい価値を生み出すのか？

②提案実現（リーン）

お客様にとっての価値は何か？
お客様は価値をどうやって知るのか？
お客様の価値が意思決定を左右するのか？
お客様の価値は変化するのか？

③プロダクト（アジャイル）

どうすれば頻繁に提供できるのか？
いかに軽快に、スピードとパワーをもって仕事をするか？
いかにして透明性のある仕事をするか？
繰り返しサイクルをどのようにタイムボックス化するか？
どのようにして規律を高めるか？

④コンポーネント（ウォーターフォール）

締め切りはどんな条件になっているのか？
マイルストーンはどうなっていますか？
ワークの依存関係はどうなっていますか？
成果物は何ですか？
リスクはどのようなものですか？

前回のDXビジネス変革セミナーで参加者と作成した成果物

「アフターコロナのテレワークどつなるか？」について、SMCの知識や経験、身近な体験と紐づけて、どんな便利さや、革新的な変化がアフターコロナの時代にテレワークに起こるか、アイデアを付箋に書き、アイデアの特徴に近い位置に貼りました。



本日は、組織の機能的役割の内、ヒアリング・提案実現・プロダクト に着目

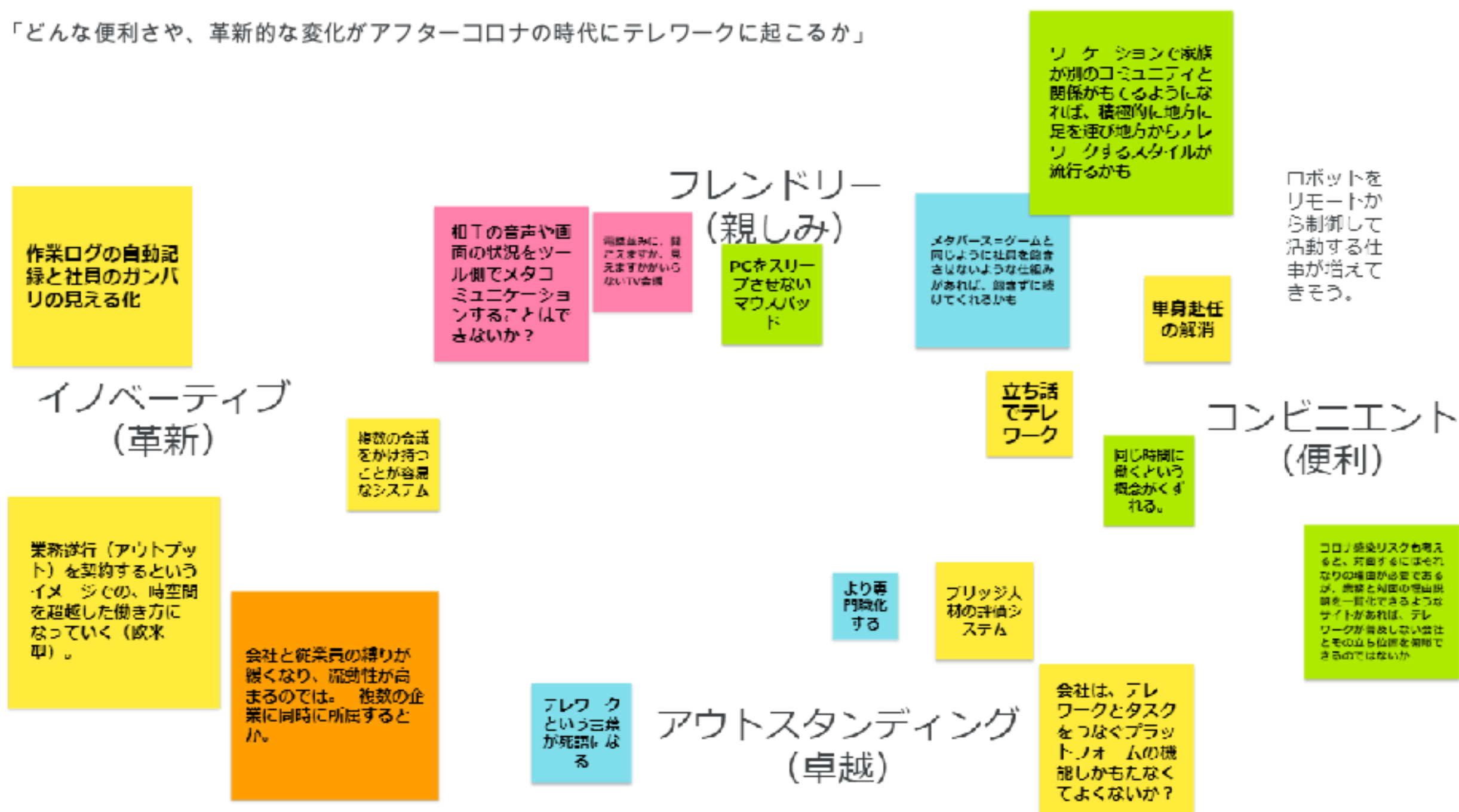
「どんな便利さや、革新的な変化がアフターコロナの時代にテレワークに起こるか」をテーマとして、
・ビジネスチャンスに変えるための思考（ワーク1）
・機能的役割を連動させる行動の明文化（ワーク2）
を体験いただきます。

それぞれの組織の機能的役割が適切に設計されても、その連携を「それぞれの思い込み」や、「なれ合い」で行って、プロジェクトとして生み出す価値の流れのスループットは向上しにくい。

そこで、PMIでは、困難な問題（課題）解決のメソッドの1つとして今回の様な「問いを介した相互理解による思考連携」のためのツール※が生み出されています。

※ Wicked Problem Solving
<https://www.pmi.org/wicked-problem-solving>

「どんな便利さや、革新的な変化がアフターコロナの時代にテレワークに起こるか」



ワーク1 Step 1. 課題に対する問いを①②③の機能的役割における代表的な問いの一覧から、それぞれ選んで黄色の付箋に書いて貼ってください。

(複数選択や、新たな問いも歓迎 問いの数が多いほど、行動のバリエーションも増える)

Step 2. その問いに対するグループで考えた答えを緑色の付箋に書いて貼ってください。

ワーク2 Step 3. 課題解決のための組織的な連携行動をグループで考えて青色の付箋に貼ってください。

①ヒアリング (デザイン思考)

お客様は何を体験したいのか?

仕事仲間との一体感

②提案実現 (リーン)

お客様にとっての価値は何か?

素早い意思決定

③プロダクト (アジャイル)

いかにして透明性のある仕事をやるか?

役割分担とイニシアティブの明文化

ワーク1

ワーク2

課題解決のために、機能的役割を連携させる行動

①仕事仲間との一体感により、②素早い意思決定をするために、③役割分担とイニシアティブを明文化する。

課題： アフターコロナ時代のテレワークに必要な課題解決のアプローチ

(プチワーク)

ワーク1 Step 1. 課題に対する問いを①②③の機能的役割における代表的な問いの一覧から、それぞれ選んで黄色の付箋に書いて貼ってください。

(複数選択や、新たな問いも歓迎 問いの数が多いほど、行動のバリエーションも増える)

Step 2. その問いに対するグループで考えた答えを緑色の付箋に書いて貼ってください。

ワーク2 Step 3. 課題解決のための組織的な連携行動をグループで考えて青色の付箋に貼ってください。

①ヒアリング (デザイン思考)

ワーク1

ワーク2

課題解決のために、機能的役割を連携させる行動

②提案実現 (リーン)

③プロダクト (アジャイル)

プロマネカに関する参考書

チーム一丸となって価値実現に挑戦するための構造化された方法論を学びたい方向けの実践書



Agile
アジャイル型
プロジェクト
マネジメント

この画像を表示

著者をフォロー



中谷公巳

✓ フォロー中

PMBOKガイド®第7版対応 アジャイル型プロジェクトマネジメント 単行本 - 2022/4/27

中谷 公巳 (著)

★★★★★ 4個の評価

ベストセラー1位 - カテゴリ 一般経営工学関連書籍

すべての形式と版を表示

単行本

¥3,080

獲得ポイント: 60pt [prime](#)

¥2,669 より 1 中古品

¥3,080 より 10 新品

【内容紹介】

建設、情報技術、医療から映画、音楽、ビアオゲ ムのプロジェクトの現場でも、プロジェクトマネジメントの実務は進化し続けています。従来の建設プロジェクトでは最初に企画のすべてを決める「ウォーターフォール型(予測型)開発」が主流でした。しかし、システム構築やソフトウェア開発に見られるように、高速でトライアンドエラーを繰り返しながらプロジェクトを完成に導く「アジャイル型(適応型)開発」のニーズが急増しています。

▼ 続きを読む

🗨️ 不正確な製品情報を報告。

本の長さ



336ページ

言語



日本語

出版社



日本能率協会マネジメントセンター

発売日



2022/4/27



